

予 算 要 求 資 料

令和4年度当初予算 支出科目 款：民生費 項：社会福祉費 目：障害福祉費

事業名 全国障害者芸術・文化祭開催準備事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

健康福祉部 障害福祉課 社会参加推進係 電話番号：058-272-1111 (内 2614)

E-mail：c11226@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 8,538 千円 (前年度予算額：2,000 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	2,000	0	0	0	0	0	0	0	2,000
要求額	8,538	4,269	0	0	0	0	0	0	4,269
決定額	6,600	3,300	0	0	0	0	0	0	3,300

2 要求内容

(1) 要求の趣旨 (現状と課題)

障がいのある人の芸術や文化活動への社会参加を通じて、障がいに対する国民及び県民の理解と認識を深めることを目的とする「全国障害者芸術・文化祭」は、各種の文化活動を全国規模で発表・共演・交流する場である「国民文化祭」と一体で、令和6年度に岐阜県での開催が内定している。(統一名称：「清流の国ぎふ文化祭2024」)

開催2年前となる令和4年度は、「清流の国ぎふ文化祭2024」の県実行委員会及び「全国障害者芸術・文化祭企画会議 (仮称)」を設置する。

(2) 事業内容

○実行委員会及び企画会議の設置

「清流の国ぎふ文化祭2024」開催に向けて、市町村や関係団体等で構成する実行委員会を設置し、基本構想の承認手続き等を行う。また、「全国障害者芸術・文化祭企画会議 (仮称)」を設置し、県実施事業の企画、広報計画等、実施計画案を策定する。

○市町村、関係団体との調整や先催県の大会視察など開催準備に係る検討

○PRイベントの実施

(3) 県負担・補助率の考え方

県 10/10

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
旅費	3,434	職員業務旅費
需用費	72	消耗品費（事務用品等）、会議費
役務費	60	電話代、郵送代
使用料及び賃借料	144	ETC 使用料等
負担金	4,828	実行委員会負担金
合計	8,538	

決定額の考え方

事業内容を精査し、所要額を計上します。

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

「清流の国ぎふ創生総合戦略」の [1 「清流の国ぎふ」を支える人づくり] - [(2) 誰もが活躍できる社会] - [②障がいのある人もない人も共に生き活躍できる社会の確立]

(2) 国・他県の状況

R3(2021)年度開催：宮崎県^(※)、和歌山県

(※)R2(2020)年度開催予定であったものが新型コロナウイルスの影響により延期

R4(2022)年度開催：沖縄県

R5(2023)年度開催：石川県

(3) 後年度の財政負担

無

(4) 事業主体及びその妥当性

全国障害者芸術・文化祭の主催者は、文化庁、開催都道府県、開催市町村及び文化団体等となる。

事業評価調査書（県単独補助金除く）

<input checked="" type="checkbox"/> 新規要求事業
<input type="checkbox"/> 継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか
 令和6年度に本県で全国障害者芸術・文化祭を開催することによって、障がい者の芸術や文化活動への社会参加を促進し、生きがいや自信を創出するとともに、障害に対する県民の理解と認識を深めることを狙いとする。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R)	R2年度 実績	R3年度 目標	R4年度 目標	終期目標	
					(R)	達成率
						%
						%

○指標を設定することができない場合の理由

令和4年度は開催に向けての調査視察や啓発、実施計画策定等の準備事業であるため、指標の設定は困難。

（これまでの取組内容と成果）

令和2年度	<p>○取組内容 国民文化祭と一体で、県内関係者及び学識有識者等により構成する基本構想検討会議を設置し、大会の基本的な考え方や概要を定める基本構想（案）の策定を実施した。</p> <p>○成果 基本構想検討会議のほか、市町村担当者会議を実施するなど、関係団体や市町村との連携を進め、令和6年度の開催に向けた調整を行った。</p>
令和3年	指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___%
令和4年	指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___%

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<p>・事業の必要性（社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断） 3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない</p>	
(評価) 3	障がい者が文化芸術活動に参加する機会の創出及び、障がい者の作品展示や舞台芸術を多くの国民及び県民に観てもらうことにより、障がいへの理解につながる。
<p>・事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） 3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない</p>	
(評価) 3	令和6年度の開催に向けて、庁内関係課、県内市町村及び関係団体等と調整を行っており、障がい者の文化芸術に対する機運が高まっている。
<p>・事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている</p>	
(評価) 2	庁内関係課、県内市町村及び関係団体等と連携しながら事業を実施しており、効率化が図られている。

(今後の課題)

<p>・事業が直面する課題や改善が必要な事項 大会の周知や大会開催の機運醸成を図っていく必要がある。</p>
--

(次年度の方向性)

<p>・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 大会の成功に向けて、市町村や障がい者団体、事業所等の関係機関との連携を密にしながら、「県民総参加によるオール岐阜の文化祭」となるよう、準備を進めていく。</p>
--

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

<p>組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課</p>	<p>事業名：国民文化祭開催準備事業費 所管課：県民文化局文化創造課</p>
<p>組み合わせて実施する理由や期待する効果 など</p>	<p>平成29年度の第17回大会（奈良大会）から、国民文化祭（所管：文化庁）と一体的に開催されており、障がいの有無にかかわらず、誰もが参加できるよう、連携する必要がある。</p>